

ひきだし

団結は労働者の権利

五十嵐幸子さん(図)

「退職にあたって思いの丈を」との原稿依頼をいただき、「ちょっと重いな」と感じながらも、私の定年は東日本大震災直後の慌ただしさの中、感慨に耽る暇も無かったので、良い機会と捉え受ける事にいたしました。

私は1969年春、旧非水溶液化学研究所の図書室に採用され、改名された反応化学研究所を経て工学分館、宮教大図書館、多元研図書室と異動し、そこで定年となり、震災直後の大混乱の中、慌ただしく附属図書館本館へ再雇用され4年3ヶ月、この6月で満65歳、トータルすると46年4ヶ月勤めた東北大学をいよいよ去ります。

新採用の1969年当時、世の中は大学紛

争の真ただ中。誘われるまま当然の事として組合に加入しましたが、高い意識があったわけでは無く、時々申し訳程度に活動に参加するだけのノンポリ組合員。

そんな私が、法人化を3年後に控えた2001年、工学分館に異動した際、誘われるままに婦人部の役員を引き受けてしまったのが、組合活動に本格的に関わるきっかけでした。

婦人部役員だけを引受けたつもりが、前任者が本部執行委員担当なので、本部執行委員も務めなければならぬ羽目になり、渋々承知した私が初めて出席した本部執行員会は法人化の危機感で熱気に溢れており、労働三権とは？労働協約とは？



労使協定とは？三六協定とは？過半数代表者とは？など、組合にいなればできなかったであろう労働法の学習をさせてもらいました。

退職を前に改めて思うのは、あの頃の東北大学職員組合の八面六臂の活躍のおかげで、今何事もなく働き続けられている大勢の職員の間、当時の危機感が消えてしまったのではないかということですね。46年4ヶ月間を東北大学で過ごした私が、今こそ声を大にして言いたいのです。

今この時ほど、労働組合が必要とされている時はありません。団結は労働者の権利だということ、忘れないでほしいと思います。

アンテナ

●農学部支部・研究科長科会見行う

6月29日に農学部支部執行委員5名、研究科長、副研究科長2名、事務長、総務係長の出席の下、「研究科長会見」を行い、①大学執行部対応について、②教員配置体制について、③構成員の評価のあり方について、④キャンパス移転問題、⑤大学運営費や研究基盤について、の5項目について、研究科長の考えをお伺いしました。

●文系支部 歓迎会を行いました

教員1名の新加入をうけ、5月19日に支部の新組合員歓迎会を行いました(参加15名)。

また6月24日に、東北工業大学の文系教員と有志の交流会を行い、団交や機関誌その他の話題で盛り上がりました(参加11名)。

●理学部支部 新執行部企画に期待

理学部支部では、最近目立った活動を行っていませんでしたが、6月に新執行部の選挙を行いました。新執行部では、楽しいイベントも企画しておりますので、今後の活躍に期待くださるようお願い申し上げます。

●病院支部歓迎会

5月8日、若者3名を含む12名の参加で大好評の手作りのちらし寿司などでおなかを満たしながらわいわいとした楽しいひと時を過ごしました。

これからの日程

- ・ 7/25 東北大学職員組合定期大会 (戦災復興記念館) 13:15~
- ・ 8/1~2 第61回日本母親大会 in兵庫
- ・ 8/2~9 原水爆禁止世界大会
- ・ 8/11~14 夏季書記局閉鎖
- ・ 9/11~13 全大協教職員研究集会 in金沢大学

編集後記

本部執行委員役員選挙は、今年も立候補者を探すのに一苦労していた。コア編集委員も後継者不足。機関紙コンクールでは、記事が多すぎると講評されたが、今回も記事は目いっぱいとなってしまった。編集委員を本気で探している。自薦他薦大歓迎。

改正労働契約法について

無期雇用転換の要望書を総長に提出していますが、本部の方針が決まっておらず、いまだに返答がありません